

令和6・7年度 港区教育委員会研究奨励園



## 中之町幼稚園だより

令和8年3月号

港区立中之町幼稚園

園長 酒井 正美

園庭のサクランボの木の蕾が少しずつ膨らんできました。三寒四温のこの頃ではありますが、園庭や園近隣の自然は、着実に季節が春に向かっていくことを感じさせてくれています。正門の近くでは、沈丁花が香しさと共に咲き始め、修了式・学年末が近いことを知らせてくれています。

4歳児地球組は、「自分たちが一番大きな組になる」ことをとても楽しみにしています。先日は、5歳児宇宙組がしてくれていた「誕生会」の司会を「今度は自分たちが」と、張り切っていました。5歳児宇宙組は、4歳児地球組の気持ちを受け止め、やって見せたり、一緒に言葉を言ったりしながら、丁寧に優しく、司会の仕方を教えてくれました。誕生会当日の、緊張しながらも、皆の前に出て、友達と一緒に頑張る4歳児地球組の姿、そしてその姿を応援する気持ちで優しく見守ってくれていた5歳児宇宙組の姿、それぞれに成長を感じました。



昨年度より取り組んできた研究「意欲的に遊ぶ幼児を育てる」～豊かな遊びがあふれる園庭環境の工夫と援助～の実践を通して、

- 「関わりたくなる自然環境の工夫」による変容
- 「使いたくなる場や物の工夫」による変容
- 「遊びの伝承・人と人をつなぐ工夫」による変容

が、幼児に見られました。どれも、幼児が主体的に遊ぶ姿につながるものですが、誕生会の司会の仕事を通して見られた4、5歳児の姿は、まさに「遊びの伝承・人と人をつなぐ工夫」によるものと捉えます。今年度は、様々な機会に、他の学年との関わりを意識した取り組みを行ってきました。3、4歳児にとっては憧れの5歳児、年長の学年にとって下の学年との関わりは、相手を思いやる行動のきっかけとなりました。

幼稚園には、学級の友達、学年の幼児、他学年の幼児、教職員、友達の保護者の方など、様々な人と関わる機会が多くあります。意図的に用意しなければ、幼児の発達に必要な、様々な人やものと直接的・具体的に関わる体験を十分に確保することが困難な現代において、幼稚園の環境は貴重です。

進級、進学まであとわずかとなりました。それぞれの学年で自分たちの成長を振り返り、自信をもち次へ進めるようにしていきたいと思えます。ご家庭でもこの一年の成長をお子さんと振り返り、認め励ましてあげてください。

保護者・地域の皆様には、今年度の幼稚園の教育へのご理解、ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。